



# 新千年記

2002年1月1日発行 第5号

赤坂野村総合法律事務所 事務所報 発行人 野村吉太郎  
〒107-0052 東京都港区赤坂6-6-28 赤坂カムフィーホームズ6A  
電話 03-3584-0690 FAX 03-3584-0692 E-mail: nomura@aec.or.jp  
特殊法人監視機構ホームページ <http://www6.xdsl.ne.jp/~nomura/>



## 新年明けましておめでとうございます。

### ごあいさつ

また、新しい年がまいりました。無事にこの新しい年を迎えられたことを有難く感謝しています。

皆様は如何お過ごしでしょうか。風邪など引かれておりませんか。何事も体が資本です。くれぐれも健康に留意され、新年を乗り切られますよう、お祈り申し上げます。

さて、去年は小泉内閣の「聖域なき構造改革」に期待したものの、掛け声だけの改革に終わってしまいました。今年はより一層厳しい年となりそうで、新年早々身を引き締めていかなければなりません。「上に政策あれば下に対策あり」という故事が中国にあります。さて、どのような対策がよいのやら。

去年は特殊法人のホームページが思いのほか反響を呼び、私も意を強くしております。今年はより一層勉強し、「経済」に強い弁護士を目指して頑張りたいと思います。



### <官僚司法>

困難な訴訟というものがある。しかも絶対に勝たなければ救われない程の絶望的状況。力のある者にどうしようもないくらい追いつめられた弱者が必死に立ち向かう。もう最後は訴訟しかない。わらをもつかむ思いで弁護士にすがりつく。しかし、法の壁に直ちに阻まれる。弁護士は正義は我にあり、理も我にあり、と勇んでみるものの、高く険しい障害を乗り越えることは容易で

はない。

人による支配ではない、法による支配というが、その理念は何であろうか。法が条文に体现された形式そのものであり、それを裁判官が宣言するだけなのであるか。判決を容易に書くために、弱者切り捨ての条文をきれいに拾い出すことが裁判官の間に流行してはいないだろうか。そんな裁判官は不要であり、害悪でもある。人工知能を有するコンピュータプログラムに我々は人生を委ねるわけにはいかない。

最近、銀行の犯罪（貸し手責任）について述べたある弁護士の本を読んでいたら、形式的に署名・押印があることだけで判決を書く裁判官など要らないと書いていた。振り返って考えてみるに、弁護士が困難な訴訟と感じる原因は、法律上の問題だけではなく、背景事情や実体を見極めようとせず、冷徹な判決マシンとも言うべき裁判官官僚に対する悪印象、もっと言うと絶望感があるからではなからうか。

官僚のよって立つところは法律、規則、条文そのもの。紛争の正義や真理よりも、法律の条文に沿っているかどうかのみを気にかける。官僚司法。これを打ち破らなければ、日本に明るい未来はない。

私が日弁連調査室嘱託となってもう6年目となる。官僚司法を打破するために微力ながら会務においても尽力したいと思う。



### みるで映画のワンシーン

偶々昨年9月のニューヨーク及びワシントンDCのテロ事件をライブ映像で見ました。地球の反対側で起こった惨事を克明に報道するテレビを見ながら思わず口走った言葉が、「まるで映画みたい」。

その後、時間が経過するにつれ世界中に影響が出始めて、私自身も予定されていた国際会議が中止になるなどの体験をしました。そのときようやく映画のような出来事が身近な出来事になった気がしました。鈍感と思われるかもしれませんが、あまりにも出来事が大がかりすぎて、自分の中で消化しきれなかったことにも原因があったと思います。

話を日本に戻すと、現在日本は、国家財政及び地方財政の合計で1000兆円を超える財政赤字を抱えるなかで、真逆さまにスタグフレーションに突入して行きそうな気配です。

1000兆円といっても、現実的なイメージさえ湧きにくく、まさに映画の「タイタニック」で観たのと同様、日本経済という巨大な船が真っ二つに折れ沈没していきそうな様相を呈しています。

中部国際空港、神戸空港、北陸新幹線、川辺川ダム等、目のくらむような巨額の無駄な公共工事を行うばかりの土建国家経済は一向に改まりません。未曾有の不況を尻目に、官僚及び官製法人のお手盛り税金かすめ盗りのドンチャン騒ぎは小手先の「改革」による焼け太りで大きくなるばかり。

何とかしなければなりません。私達は映画の観客ではなく、主役なのでから。

## 放浪 (きすらい)

一昔前、放浪が流行した時代があった。最近あまり聞かない。あてもなくさすらうという野良犬的でネガティブな響き自体が受けないのかもしれない。今はフリーターなどという形で亜流が登場しているが、放浪とは対照的で、基本的には明るく、帰る場所から離れない飼犬的なイメージがある。

私が放浪の風に吹かれるのは、3年前に購入したキャンピングカーに乗って遠出の旅に出かけるときだ。数百キロ以上走り、辿りついた海岸で夕日を観て近くの公園で寝る。このような生活を数日していると、すっかりその気になってくる。

昨年のゴールデンウィークは能登半島及び金沢を旅した。「能登はやさしや土までも」これは、私が高校時代の修学旅行で能登に行ったときに聞いた言葉。その言葉が忘れられずに再び訪れたのである。

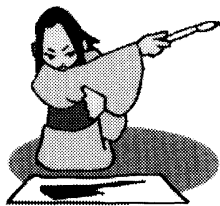
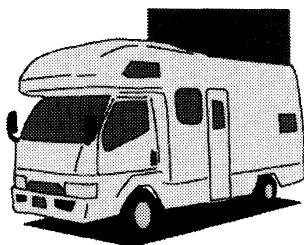
昨夏は北海道を走り抜けた。苫小牧までフェリーで行き、そこから小樽、余市、歌志内、富良野、美瑛、旭川、サホロ、網走、弟子屈、中標津、阿寒、羅臼、霧多布、十勝などを八日間の旅。道中はひげを剃らずにアイヌのハチマキをして気取っていたが、結局家族の猛反対に会いひげ面は却下されてしまった。

旅の空は夜がいい。凜として冷たく静かな夜がいい。北の夜空はなおいい。北極星がこれから行くべき道を示してくれているようで。人は旅の空に誓いを立てる。後で忘れてしまうけれど。

旅の終わりは少し寂しくつらい。帰るべき場所へ向かうと分かっている、どこか後ろ髪を引かれるものがある。旅の終わりは、旅の始まり。

旅に病んで夢は枯野をかけ巡る

(芭蕉)



## 筆の効用

最近キーボードに触れる時間が多くなった。ワープロは弁護士になったときからずっとやっているが、インターネットと電子メールのおかげで、以前の倍以上はキーボードの世話になっている。しかし、どうしてもキーボードを打ちたくないときがある。あまり打ちすぎて腱鞘炎になるのも嫌だし、ディスプレイを見るのも疲れる。そもそもコンピュータから逃げ出したいときがある。でも、期限締め切りが気になる。

そんなとき、私はおもむろに筆ペンを取り出す。紙はB4の裏紙。一文字を3センチから5センチ大で思い切り書きなぐる。これが実に筆が進むのである。

この筆の効用は、私が以前勤務していた事務所のボス弁だった深沢先生(現最高裁判事)譲りのものである。

先生は、まず墨をするところから始めていたが、私はさすがにそこまでは真似できないので、筆ペンで誤魔化している。しかし、同じ筆ペンでも本物の筆と同様の毛先の柔らかい、濃淡の出るものがすこぶる書き心地がよい。

字の上手下手はおかまいなしに自己流で書きなぐる。これが実に快感なのである。だが、それを解説してワープロする秘書にとっては難作業である。「先生、これはいったい何と書いているのでしょうか。」と聞かれて答えたり、秘書が崩れた字を読みこなして「よく読めたね」と驚いたり、とこんなやりとりがあるのも楽しい。

最近「書」が静かなブームを呼んでいるらしい。あなたも一度やってみてはいかがだろうか。

## 朝めし前

男40代は何かと健康を害しやすい。若いときに比べれば体の無理はきかないが、一方で仕事は忙しくなるばかり。その上夜の飲み会が重なれば、体調を崩さない方が

不思議になってくる。一昨年の夏、私はそういった悪循環に陥っていた。そして、次々とズボンのウエスト幅を拡大していったのである。

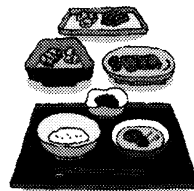
その転機の一つとなったのが、子供と一緒に行ったプールである。そこで目にした若者の引き締まった体と対照的な私。追い打ちをかけるように、最近おながが出たねとの周囲からの声。

自分でも体調がすぐれないのが分かってはいたが、仕事が終わって夜遅く帰り、それから食事とアルコールの生活パターンはなかなか抜け出せない。スポーツクラブでストレッチや水泳という選択もあるが、まず日中にスポーツクラブに通えるような時間がないし、毎月の費用も高く、わざわざクラブまで行くのが面倒である。

そこで考えたのは、月並みだが、朝早起きして走る。天候が悪いときや走りたくないときはヒンズー・スクワットをすること、合わせて柔軟体操をすること、である。

この組み合わせで現在まで続いている。走るのは週2~3回、あとはスクワットをしている。スクワットといっても、新聞やテレビを見ながらゆっくり浅くやっているので、それほど激しい運動ではないが、これを30分やると汗が全身から吹き出してくる。前日飲んだアルコールも朝飯前の運動でかなり抜けてくる。

汗をかいてシャワーを浴び、それから朝食を取る。朝食前の運動は気持ちがいい。



最近健康食品やサプリメントばかりだが、何よりもまず体を動かしていい汗をかく(冷や汗はかきたくないが...)ことが大事だと感じている。

## 編集後記

先日千葉の海辺にて月待ちをしました。月をみながら海辺でコーヒーを入れて飲みました。とても穏やかな時間を過ごすことができましたが、今年ほど、このような小さな平穏にありがたみを感じる年はなかったのではないかと思います。

今年は皆様にとって、良い意味で心驚かされる一年でありますように。

Peace on earth! (小坂&太田)